

بسم الله الرحمن الرحيم

MINNANO MUSLIM NEWS PAPER

新生

ムスリム新聞

西暦2018年 1月21日

ヒジュラ暦1439年 ジュマードル・ウーラー

302号

【まえがき】

アッサラームアライクム（皆様に平安がありますように）。

「ムスリム新聞」をダウンロードしてくださりありがとうございます。

いつも同じ内容で変わり映えがありませんが、素人が空き時間につくっているものですので、どうぞ寛恕ください。

今後とも、ムスリム新聞をよろしくお願いいたします。

編集補佐 ムジャーヒド

クルアーン解説

訳 アーリファ松山朋子

第41章【解説された】46～48節（12）

慈悲あまねき慈悲深きアッラーの御名において

善行をなした者、それは己自身のためである。そして、悪をなした者、それは己に仇している。そしておまえの主はしもべたちに対して不正な御方ではあらせられない。（41:46）

かれの御許にかの時の知識は戻される。そしてかれの知識によらずして、どんな果実もその萼（がく）から出ることはなく、どんな女も子を宿し、産み落とすこともない。そして、かれが彼らに、「われに対する共同者たちはどこか」と呼びかけ給う日、彼らは言った。「われらはあなたに伝えました。われらの中には証言者などいませんでした」。（41:47）

彼らが以前から祈っていたものは彼らからはぐれ去り、彼らは考えた、彼らには逃所などない。（41:48）

クルアーンの部分は、『日垂対訳クルアーン』（作品社）を参照しています。

★ジャラーライン（『ジャラーラインのクルアーン注釈（Tafsīr al-Jalālain）』ジャラール・アル＝ディーン・アル＝マッハリール（ヒジュラ暦864年没）とジャラール・アル＝ディーン・アル＝スユーティー（ヒジュラ暦911年没）著）（参照：『タフスィールアル＝ジャラーライン』第3巻、中田香織（ハビーバ）訳中田考（ハサン）監訳、日本サウディアラビア協会、2006年。）

『ジャラーライン』はクルアーンの読誦法としてワルシュ&ナーフィウを採用しています。

★イブン・カスィール（『イブン・カスィールのクルアーン注釈（Tafsīr Ibn Kathīr）』イブン・カスィール（ヒジュラ暦774年没）著）

★クシャイリー（『精妙なる示唆（Latā'if al-'ishārāt）』クシャイリー（ヒジュラ暦465年没）著）

※文中のひらがなの「かれ」はすべてアッラーのことです。

善行をなした者、それは己自身のためである。そして、悪をなした者、それは己に仇している。そしておまえの主はしもべたちに対して不正な御方ではあらせられない。（41:46）

★ジャラーライン

『それは己自身のためである』つまり、彼は（己自身のために）なしたのです。

『悪をなした者、それは己に仇している』彼の悪行は、彼自身を害するのです。

『おまえの主はしもべたちに対して不正な御方ではあらせられない』つまり、不正の持ち主ではあらせられません。というのも、かれ（至高なる御方かな）の御言葉に『まことにアッラーは微塵の重さも不正はなし給わない』（第4章〔女〕40節）とあるからです。

★イブン・カシール

かれ(至高なる御方かな)は『善行をなした者、それは己自身のためである』と仰せになりました。つまり、まことに、そのことの益は、己自身に戻るのです。

『そして、悪をなした者、それは己に仇している』つまり、まことに、そのことの行為の悪い結果は、己に戻るのです。

『そしておまえの主はしもべたちに対して不正な御方ではあらせられない』つまり、かれは、誰かに、その者の罪について以外は、罰を与え給うことはありません。そして、かれは、誰かを、その者に論拠の提示と使徒の派遣の後でなければ、咎め給うことはありません。

★クシャイリー

『それは己自身のためである』なぜなら、ほんとうに、益は自らに戻るものだからです。また、悪い行いをなした者、まことに、彼は彼自身に不正を働き、彼自身に悪をなしました。なぜなら、ほんとうに、彼こそが、彼の危害を被り、彼の悪を請け負ったからです。

かれの御許にかの時の知識は戻される。そしてかれの知識によらずして、どんな果実もその萼(がく)から出ることはなく、どんな女も子を宿し、産み落とすこともない。そして、かれが彼らに、「われに対する共同者たちはどこか」と呼びかけ給う日、彼らは言った。「われらはあなたに伝えました。われらの中には証言者などいませんでした」。(41:47)

★ジャラーライン

『かれの御許にかの時の知識は戻される』いつ、それ(かの時)があるのか、かれ(アッラー)以外に知るものはいません。

『どんな果実も』「thamarātin(果実)」と複数形で読む読誦法もあります。(ハフス&アースィムの読誦法はこちらです)

『その萼(がく)』その花苞(かほう)。「'akmām」は、第Ⅰ語根「kāf」を母音「i」とする「kimm」の複数形です。

『どんな女も子を宿し、産み落とすこともない』かれの知識によらずして。

『われらはあなたに伝えました』今、われらはあなたに知らせました。

『われらの中には証言者などいませんでした』つまり、あなたに共同者がいると証言する者は(いませんでした)。

★イブン・カシール

次に、かれ(威厳を具え、いと高き御方かな)は『かれの御許にかの時の知識は戻される』と仰せになりました。つまり、かれを除いて、誰もそのことについて知りません。ムハンマド(アッラーの祝福と平安あれ)

——彼は人間の長です——が、ジブリール（祝福と平安あれ）——彼は天使たちの長です——にかの時に
について尋ねられた時、「それについて尋ねられた者は、尋ねた者より、より知ってはいません」と言われた
ことと同様です。

また、かれ（誉れ高き威厳ある御方かな）が『おまえの主の御許にその結末はある』（第79章[引き抜く
者たち]44節）と仰せになったこと、また、かれ（威厳高くある御方かな）が『その時刻にそれを示すのは
かれのほかにない』（第7章[高壁]187節）と仰せになったことと同様です。

かれ（称賛されし至高なる御方かな）の御言葉『そしてかれの知識によらずして、どんな果実もその萼
（がく）から出ることはなく、どんな女も子を宿し、産み落とすこともない』つまり、あらゆるものは、かれの知
識によります。地と天にある微塵の重さも、かれの知識から逃れることはありません。そして、また、かれ（超
越せし、至高なる御方かな）は『また木の葉の一枚もかれが知り給わずに落ちることはなく』（第6章[家
畜]59節）と仰せになりました。

また、かれ（威厳を具え偉大なる御方かな）は『アッラーは女性がそれぞれ宿すものを知り給い、子宮が
減じるものと、それが増すものをも。あらゆるものはかれの御許に定めのある量がある』（第13章[雷]8節）と
仰せになりました。

また、かれ（至高なる御方かな）は『書の中になくして長寿者が生き延びさせられることはなく、また寿
命を減らされる者もない。まことに、そうしたことはアッラーには容易いこと』（第35章[創始者]11節）と
仰せになりました。

そして、かれ（威厳を具え至高なる御方かな）の御言葉『そして、かれが彼らに、「われに対する共同者
たちはどこか」と呼びかけ給う日』つまり、復活の日、アッラーは、被造物の面前で、多神教徒らに、「おま
えたちがわれと共に仕えていたわれの共同者というのはどこか」と呼び掛け給います。

『彼らは言った。「われらはあなたに伝えました。」』つまり、「われらはあなたに知らせました」。

『「われらの中には証言者などいませんでした。」』つまり、「あなたと共に共同者がいることを証言する者
はだれも、その日いませんでした」。

★クシャイリー

彼らが「アッラーがそれによってわれらを脅したところの、この復活はいつ起きるのか」と急かして言った
時、アッラー（至高なる御方かな）は「まことに、復活（の日）の知識、それについて、真実なる御方は単独
であらせられる、それゆえ、かれ以外にそれを知るものはない」と仰せになりました。それゆえ、それと同様
に、木々から出て来るさまざまな果実について、また、女性たちの子宮に包まれている彼女の男女の子ども
たちについて、彼らが具えた本性（khilqah）のさまざまな性質について、さまざまな動物から生み出され
るそれらのひなについて、誰も知りません。なぜなら、この事らは、アッラーを除いて知らないからです。それ
で、そのように、復活（の日）が起こるのはいつか、誰も知りません。

『そして、かれが彼らに、「われに対する共同者たちはどこか」と呼びかけ給う日』：彼らは、彼らの共同者
から、自由になります。しかしながらそれは、彼らの後悔と涙が彼らを益することのないときにおいてなので
ある。

彼らが以前から祈っていたものは彼らからはぐれ去り、彼らは考えた、彼らには逃所などない。

(41:48)

★ジャラーライン

『以前から』現世で。

『祈っていた』仕えていた。

『…ものは』偶像やそれ以外のもの。

『はぐれ去り』消え去り。

『逃所』懲罰からの避難所。

『彼らは彼らに逃所などない (mā la-hum min maḥīṣ)』2箇所 (もう1つは『われらの中には証言者などいませんでした』) における否定 (否定詞「mā」) は、構文支配語 (『伝えました』と『考えた』) から離れています (つまり、構文支配語の支配を無効としている)。また、否定の文節 (先述の2箇所) は2つの目的語の位置を占めています。

『彼らは考えた』彼らは確信した。

★イブン・カスィール

『彼らが以前から祈っていたものは彼らからはぐれ去り』つまり、それらは、逃げ去り、それで、彼らに益を与えませんでした。

『彼らは考えた、彼らには逃所 (にげど) などない』つまり、「そして、多神教徒たちは、復活の日、考えた」。また、これ (『考えた』と) は、確信 (した) という意味です。

『彼らには逃所 (にげど) などない』つまり、「彼らには、アッラーの懲罰から逃れられる場所はない」。かれ (至高なる御方かな) の御言葉『そして罪人たちは獄火を見、そこに落とされる身であると思うが、そこからの出口を見出さない』 (第18章 [洞窟] 53節) と同様です。

続く、インシャーアッラー。

見ようアラビア語 クルアーン第4 | 章46節

مَنْ عَمِلَ صَالِحًا لِنَفْسِهِ وَمَنْ أَسَاءَ فَعَلِيَهَا.

(意訳) 善行をなした者、それは己自身のためである。そして、悪をなした者、それは己に仇している。

مَنْ عَمِلَ صَالِحًا
(関係代名詞) (動詞) (名詞)

who

善行

なした

～者

لِ + نَفْسٍ + هِ ← لِنَفْسِهِ
(前置詞) (名詞) (人称代名詞)

彼自身のため

彼の

～自身

～のため

وَ مَنْ أَسَاءَ
(接続詞) (関係代名詞) (動詞)

who

悪をなした

～者

そして

فَ + عَلَيَّ + هَا ← فَعَلِيَهَا
(接続詞) (前置詞) (代名詞)

against

then

するとそれに仇した

それ

～に仇して

そのとき

【イブン・カスィールとは】

『岩波イスラーム辞典』(大塚和夫他編、岩波書店)より

イマード・ツディーン・イスマーイル・イブンウマル・イブンカスィール・アル＝ディマシュキー(1300頃-73)

マムルーク朝期のシリアで活躍した著名な歴史家、ハディース学者、タフスィール学者。幼少の頃よりダマスカスで暮し、シャーフィイー学派の法学を学んだあと、イブン・タイミーヤの影響を強く受け、弟子となった。アミール(注:ムスリム共同体の長)の諮問に答え、ファトワーを出すなど、ウラマーとしても活躍。ダマスカスで没し、師イブン・タイミーヤの隣に葬られた。もっとも重要な著作は、天地創造から当時のダマスカスまでも描いた歴史書『始まりと終わり』とされる。またハディース学への貢献も大きく、『完成の書』など多くの重要な著作を残した。加えて『クルアーン解釈』は、解釈のおもな根拠をクルアーンそのものとハディースに限定し、解釈者のラアイを排除するという方法論に基づいた者であり、クルアーン解釈史上重要な位置を占める。(大川玲子)

『宗教諸学の再興・要約』（第15回）

著アブー・ハーミド・ガザーリー

訳 アスアド木村風雅

< >はアッラーの御言葉、（（ ））は預言者ムハンマドの言葉

クルアーンの訳出にあたっては、中田考監修『日垂対訳 クルアーン』（作品社 2014）を参照した。

第3部「清め（タハーラ）の秘儀について」 第1章 儀礼上の不浄（ḥadath）の清め

ウドゥーウ（清め）の様式

【その3】

次いで、右の脚を三回洗う。その際、左手の小指で、右足の指の根本から〔足の指と指の間に〕指を通す。その際、右足の小指から始め、左足の小指で終える。その際、以下のように唱える。「アッラーよ、業火（にかかる橋の上）で、数々の人の足が滑る日、業火の上にかかるシラート（橋）の上で、私の歩みを確かなものとしてください」。左足を洗う際には、以下のように唱える。「アッラーよ、私はあなたに、偽信者の歩みが（業火の上にかかる橋の上で）滑る日に、シラート（業火の上にかかる橋）の上で私の足が滑らないようにご加護を求めます」。それから、水を両方の脛の半ばまで持ってくる。

（ウドゥーウ動作が）完了した際には、以下のように唱える。「私は、唯一なるアッラー以外に神が存在せず、彼に共同者がいないことを証言する。また、ムハンマドがアッラーの僕であり、アッラーの使徒であることを証言する」。そして、以下のように唱える。「アッラーよ、あなたに讃えあれ。あなた以外に神はない。私は悪を働き、自分自身に対して不正を働きました。私はあなたに赦しを求め、あなたに悔いて戻ります。私を赦し、私を顧みてください。あなたは誠によく赦される方であり、慈悲深い方です。アッラーよ、私を悔悟する者たちの一人としてください。また、私を清らかなものたちの一人としてください。私を正しいあなたの僕の一人にしてください。私を忍耐強く、感謝する者とし、あなたをよく念じるようにしてください。私は朝に夕にあなたを讃えます。」

以上のように行った者は、ウドゥーウをきちんと全うした。そして、それ（ウドゥーウ）は、彼のために玉座の下に昇り。そしてそれは止むことなく、アッラーを賛美し、聖なるものと称える。そしてそれは、彼のために彼の報償を復活の日に至るまで書き留め続ける。

ウドゥーウにおいては、以下のことが忌み嫌われる。（各部位の洗浄の）回数が三回を超えること、水を使いすぎること、手を振り回し、水を撒き散らすこと、そしてウドゥーウの間に話をするものである。

（『宗教諸学の再興・要約』はしばらく休載いたします）

東南アジアのシャーフィイー派 第 14 回

—パターニー①—

塩崎悠輝

前回は、東南アジアでシャーフィイー派の法学が広く教えられており、日常生活でもその知識が求められることが多くあるため、シャーフィイー派の法学を学んでくる人たちが多く必要とされる、ということについて書きました。ある社会で法学派が定着していくには、何世紀もの長い時間がかかります。フィクフの実践は、個人として以上に、あるいは数人程度のグループとして、という以上に、国くらいの大きな共同体があってようやく円滑に行われうるところがあります。初めはムスリムすらほとんどいなかったところに、ムスリムが少しずつ増え、イスラームの知識を身につけた人が少しずつ増え、国という共同体として、ムスリムがイバーダを実践しやすい社会をつくる、というのは、数世紀はかかる話です。東南アジアだと、マッカやカイロなどに多くの人々が学びに行くようになったのは、せいぜいこの 150 年くらいのことです。それ以前は、イエメンなどから貿易のために来るアラブ人やペルシア人、インド人を通して、少しずつイスラームが広まっていったと考えられます。東南アジアのムスリムがイスラームの学問を学びに行く場所としても、イエメンが重要でした。イエメンは、今でも東南アジアのムスリムがイスラームを学ぶ上で重要な場所ですが、とりわけ東南アジアのシャーフィイー派の歴史において重要で、この連載でもそのうち触れる必要があるでしょう。

東南アジアのムスリム社会が日本から見て興味深いところの一つは、もともと仏教徒（とヒンドゥー教徒）が多数であった社会で、何世紀もかけてムスリムが増えていって、多数を占めるに至ったことです。あるいは、仏教徒が多数を占める国で、何世紀ものあいだ暮らしてきたムスリムの社会があることです。日本のムスリムがおかれている状況は、ヨーロッパやアメリカに住むムスリムと似ているところもありますが、東南アジアや中国のムスリム社会により似ているというところもあります。中国や東南アジアの仏教徒が多数を占める国で生きてきたムスリムたちの歴史は、現代に至るまで多くの苦難を経てきました。それでもどうにかムスリムとして生きてきた彼らから学べることもたくさんあるでしょう。タイのムスリムは、そうした仏教徒の社会と接しながら生きてきた人々です。

タイでは、ムスリムは総人口の 5～10%程度であると考えられていますが、最もムスリムが固まって住んでいるのは、パターニーと呼ばれた地域をはじめとする南部の方です。他にも首都のバンコクやその近くの都市であるアユタヤにもムスリムはいます。また、北部には、中国の回族に近いムスリムが住んでいます。

パターニーは 13 世紀にはムスリムによる王国ができていて、1902 年に完全にタイ王国に併合されるまで存続していました。パターニー王国は大きな国ではありませんでしたが、東南アジアにおけるイスラームの学問の中心地の一つになりました。東南アジアで少しずつイスラームが広まっていき、イスラームの知識を身につける人が増え、社会全体でイバーダを实践できるようサポートしていけるようになっていくうえで、拠点となりました。とパターニーは、東南アジアの各地から、イス

ラームについて学ぼうとする学徒が集まって来る場所でした。イスラームを学ぶ寄宿学校であり、イスラームを学び実践する共同体であるポンドックは、今もパターニーにはたくさんあり、社会で非常に重要な施設です。パターニーの人々が日常的に話しているのは、東南アジアのムスリムの共通語でもアルマレー語です。パターニーのムスリムは、自分たちのことをマレーシアのムスリムと同じマレー人であると考えています。しかし、タイ王国とイギリスが取り決めて国境線を引いた結果、パターニーのムスリムとマレーシアのムスリムは別の国の国民ということになってしまいました。

パターニーは、中国からインド、中東、ヨーロッパに至る交易で多くの船が経由する港があり、経済的には栄えてきました。各地に交易のため船を送り、戦国時代末期の日本や琉球王国との間でも往来がありました。しかし、タイ王国から度重なる侵略を受け、ついに 1902 年に完全に併合されてしまいました。現在では、パターニー王国であった地域は、パッタニー県、ナラーティワート県、ヤラー県、ソクラー県という 4 つの県に分割されています。それでも、これら4つの県は、ムスリムが多数を占めています。パターニー王国は、タイ王国の侵攻に対して、抵抗を続け、ウラマーもその中で大きな役割を果たしました。19 世紀にもタイ王国の占領軍に対する反乱が繰り返されましたが、成功することはなく、指導にあたったウラマーは国外に逃れなければならなくなりました。彼らの多くは、従来からパターニー王国と交流の深かった現在のマレーシア北部、クランタン、トレンガヌ、クダーなどの地域へ逃れました。これらの地域では、現在に至るまでポンドックが多く、パターニーのウラマーによる法学書やタサウウフのキターブも教えられています。

パターニー王国による反乱が敗れた際、一部のウラマーはマッカまで逃れました。彼らはマッカでマスジド・アル＝ハラームや他のモスク、学校などで教え、特に東南アジアからやって来た学生たちの師となりました。彼らパターニー出身者は、名前に「アル＝ファターニー（パターニーのアラビア語訛り）」と付けて呼ばれました。19 世紀に増えたマッカのパターニー出身のウラマーの中で最も傑出していたのは、ダウド・ビン・アブドゥッラー・アル＝ファターニー（1769-1847）です。

次回から、ダウド・アル＝ファターニーをはじめとするパターニーのウラマーについて書いていきたいと思います。彼らの人生や、果たした役割、現在まで読まれている彼らが書いた法学書などについて書きたいと思います。

続く、インシャーアッラー。

【新刊の紹介】

『イブン・タイミーヤ政治論集』イブン・タイミーヤ（著）、中田考（編集・訳）、作品社（内容）「“ジハード”とは何か？西洋近代とは異なる「政治」の要諦。本書は、イスラーム国法学と政治の一般理論、原理主義反体制武装闘争派の革命論に理論的基礎を与えたファトワー（教義回答）など、現代中東政治を読み解くための最良の古典である。」（<http://www.sakuhinsha.com/philosophy/26740.html> より）

【電子書籍】

『人定法に裁定を求めること』アール・シャイフ（著）、中田考（訳）、こばやしゆうた発行
ムスリム新聞でも、過去掲載しました『人定法に裁定を求めること』が電子書籍で出版されました。

<https://books.rakuten.co.jp/rk/8211c5033fd23b6fa8a3f6f079c01b86/>

こちらから無料でダウンロードいただけます。

（商品説明より）「アール・アル＝シャイフ（サウジアラビア王国ムフティー）による論考『人定法に裁定を求めること』は、イスラーム政治論における最重要文献の一つであり、西欧法を継受した近代国家体制の否定理論です。」



イスラームの風 NASIM ISLAM

著：イーマーン・アル=キッル先生

訳：ダマスカス留学生有志

【本物の信仰と本物のイスラームとは？】

信仰（イーマーン）：心に宿る光。その影響は、ふるまいや行動に現れる。

信仰者のふるまいは、自分を創造した創造主が、聖なるクルアーン（コーラン）で命じたことと禁じたことにより、確定します。そして、この確定が、「イスラーム」と呼ばれます。

つまり、「イスラーム」は、信仰の結果、現れるものです。そのため、本当の信仰者というのは、その思考、両手両足、身体を、自分が信じた創造主にゆだねた人です。創造主が自分に課したことを無視せず、禁じたことを犯しません。

この委託は、讃えあるアッラーが命令したことと禁じたことは、必ず自分を幸せにする、という信仰者の確信から生まれます。

至高なるアッラーは、イスラーム法の規定を、ご自分のためではなく、私たちがこの人生において幸せになるために置かれました。そして、クルアーン（コーラン）をお贈りくださり、その中で、どうしたら私たちが、恐れやねたみのない、安らぎある人生を送ることができるかを、教えてくださいました。

人生を曇らせてしまう原因は、過ぎ去った過去と、将来に対する不安であることはだれもが知っています。私たちは、後から後悔するようなことをしてしまったり、また、何が起こるかわからないまだ見ぬ未来に対して不安を抱いたりします。

人の能力には限界があること、何でもしたいことができるわけではないことをよくご存じのアッラーは、私たちが、平安で安らぎのある人生を送るための助けとなるよう、このクルアーン（コーラン）をお贈りくださいました。

そのため、信仰者は、アッラーが命じたことに従い、禁じたことを止めることは、創造主からの思いやりであり、自由の束縛ではないことを、確信しています。

至高なるアッラーが、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）に語られた伝承において、アッラーはこうおっしゃいました。

« わがしもべよ、もしもお前たちの最初の者、最後の者、人間やジンがみな、仲間のうちで一番敬虔な心の持主のようであったとしても、それで私の王国に何ひとつ付け加えることはできない。

わがしもべよ、お前たちの最初の者、最後の者、人間やジンがみな、仲間のうちでもっとも邪悪な者のようであったにしても、それで私の王国から何ひとつ減ずることはできない・・・ » ムスリムの伝承

また次の投稿に続きます、インシャーアッラー。

～～～

ハディース訳：参考文献

『40のハディース』イマーム・アンナワウィー 編

黒田壽郎 訳 <http://bit.ly/246SXnh>

【クルアーン無料レッスンのお知らせ】

アッサラーム アライクム ワ ラフマトウッラーヒ ワ バラカートゥフ

まだアラビア語でクルアーンを読んだことがない方に朗報です！スカイプや Facebook、ライン、ワッツアップなどのオンラインの音声チャットによる、プライベートレッスンに無料でご参加いただけます。

★日時：一対一のプライベートレッスンなので、ご自分のペースで始められます。

時間帯・頻度については先生とご相談の上決めていただけます。(使用言語：日本語)

土日、平日、朝、夜、昼間、週何回、いろいろ対応可能。

一回 10 分くらいからのすき間時間でもステップアップ可。

★参加費：無料

★対象：以下の項目に一つ以上当てはまる方（ムスリマ女性限定）

- ・アラビア文字は一文字も読んだことがない
- ・美しいアラビア語の発音を身に付けたい
- ・クルアーンを詠んで、胸の中にある病を治したい
- ・まとまった時間はとれないので、ちょっとした隙間時間でうまくなりたい
- ・クルアーンをもっとスラスラ読めるようになりたい
- ・預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の読み方、タジュウィード(クルアーン読誦法)を身に付けたい
- ・アッラーからの導きと慈悲を受けとりたい
- ・自分のペースで、少しずつアラビア文字を覚えたい
- ・もっと預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の読み方に近づきたい

クルアーン {人々よ、あなた方の主から確かに勧告が下された、これは胸の中にある（病）を癒し、又信者に対する導きであり慈悲である。...} [ユヌス章：57-58]

★申込み方法：welove.allah@hotmail.com 宛に、件名を「レッスン希望」として、メールをお送りください。
折り返し、先生の方から返信をお送りします、インシャアッラー。

アッラーが、私たちの人生を、クルアーンで飾ってくださいますように

ワッサラーム アライクム ワ ラフマトウッラーヒ ワ バラカートゥフ

ダマスカス留学生有志

【編集後記】

アッサラームアライクム（あなたに平安がありますように）

今月も最後まで新聞をお読みいただきありがとうございました。

1月も半ば日差しも暖くなり、外で鳴く鳥の声にも春を感じるようになりました。

さて、わたしの毎日の生活は、朝起きてこどものお弁当を作って、午前中掃除洗濯などの家事をして、午後はアラビア語の翻訳をするか本を読むかして、夜は寝る準備をするという行動の、繰り返しになっています。週末は、名古屋モスクにこどもをクルアーンの勉強のために連れて行くことででかけたりしますが、基本的に、近所のスーパーに2日に1度日々の食べ物とか日用品を買いにいくことぐらいしか出かけません。

同じことの繰り返しの生活をしていると、ある日は何もしたくなって暇な時間があり、どこか遊びに行こうかなとも思ったりしますが、しなくてはいけないことがあるのにただやりたくて暇な時間があるだけなので、どこかに行くと疲れると、しなくてはいけないことが結局できなくなるのだと思って、どこにも行く気にもなりません。それが本当にしなくてはいけないことなのかどうかは分かりませんが、どこかで気晴らしに遊ぶよりは自分の中でやりたいことなのだろうと思います。

20代前半まであった体力は雲散霧消し、残り少なくなった体力で日々の仕事をこなしています。

ワッサラーム アライクム ワラフマトウッラーヒ ワバラカートゥフ（そして、あなたに平安とアッラーの
ご慈悲とかれの恵みがありますように。）アーリファ松山

))

【ニューファイブラヒム男爵のつぶやき】

「ジョーズを上手に捕まえられなかった(͡° ͜° ͡°)」